

令和5年度 第1回地方独立行政法人香取おみがわ医療センター評価委員会 議事録

開催日時 令和5年7月24日(月) 午後1時30分から午後2時40分まで

開催場所 香取市役所 7階 全員協議会室

出席者

(委員) 加藤直也委員長、坂本文夫副委員長、野村幸博委員、井上貴裕委員、寺口恵子委員

(香取市) 伊藤友則市長、菅澤徹地域医療推進室長、菅谷和之地域医療推進室次長、渡邊一央地域医療推進室主事

(香取おみがわ医療センター)

寺野彰理事長、桑原憲一病院長、絵鳩万里事務部長、笹本孝信医療支援部長、篠塚信子看護部長、瀧口広経営企画室長、村田佳宏管理課長、菅谷瑞枝経営企画班長、鎌形義則経理班長、伊藤秀樹副主幹、菅谷浩経営企画室主査、菅野絵美子主任主事

-
- 次 第
1. 開 会
 2. 香取市長あいさつ
 3. 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター理事長あいさつ
 4. 議 事
 - (1) 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター令和4事業年度業務実績評価について
 5. その他
 6. 閉 会
-

1. 開会

□司会 (菅澤室長)

《資料の確認及び会議の成立を報告》

2. 香取市長あいさつ

□伊藤市長

令和4年4月1日から香取おみがわ医療センターを地方独立行政法人化しました。委員の皆様には法人の設立段階から多大なるご協力いただき感謝申し上げます。設立団体である香取市にとって、香取おみがわ医療センターは、地域住民が安心して暮らすことのできる地域医療を実現する中核病院として、大変重要な役割を担っていると実感しております。

この度、令和4事業年度が終了しました。この後、令和4事業年度の業務の実績等に関する報告と評価に関して説明がありますが、概ね目標を達成できたと聞いております。地方独立行政法人化して初めての業務実績等に関する報告と評価になることから、委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただければと存じます。

今後も、香取おみがわ医療センターが更なる発展を遂げられるようご指導賜りたくお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

3. 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター理事長あいさつ

□寺野理事長

地方独立行政法人化して1年と4か月が経過しました。これまで、市立病院としてお世話になってきましたので、ある意味で、独法化ということで、独立したことにはなるんですけども、実際は香取市に頼らざるを得ないというのが現実です。

ただ、私もこちらに来てから1年と9か月になるのでだいぶ慣れてきたという感じはあるのです。第一に関心するのは、職員のみなさんが、語弊があるかもしれませんが、公務員のときからそうらしいんですけども、ほとんど変わらず非常に真面目に熱心に働いていただいているということが、私の第一の感激です。今後こういう形で頑張っていれば、当医療センターも近い将来の発展に繋がるのではないかなと思っています。

そうは言いますが、市のサポートがない限りは、我々はどうもようもないわけがあります。この点は、本当に独法化したとは言いながら、結局は香取市にかなり負担してもらっているということは間違いありません。我々もその点はより謙虚に受け止めています。私は、私立の大学にいたので、公務員の感覚というのがちょっと薄れていたんですけども、こうやってみますと、実際は公務員と変わらないということで、そういう意識で職員全員が一致しているということで私も大変感激しておりますし、市長にも大丈夫ですよ、と言えるような立場にあるのではないかなというふうに思います。

とにかく、この間コロナというのがずっと暴れていたわけですけども、5月に入って

2類指定の感染症ではなくなったということで、自由になり過ぎたんじゃないかと思うくらい自由になってしまって、再度コロナが拡大してくるという話も聞いておりますので、それに負けずに頑張るしかないということです。

病院の位置づけというのは、大きく言えば香取市なんですけれども、狭い意味で言えば、小見川地区になりますが、結構周りの住民の人たちに頼りにされていて、親しまれているのではないかと私自身は感じています。また、ここに来ておられる評価委員会の先生方をはじめ、旭中央病院や県立佐原病院、各医師会の方々にも大変お世話になってありがたいと思っております。

今後、近いうちになんとか業績も上げて黒字にしたいと思っておりますけれども、もう少し時間がかかるかもしれませんので、その点はお許しいただきたいと思っております。

そういうことで今後も厳しい目と、優しい目で見つづけていただければ、この病院を1人前のどこにも恥ずかしくない病院にしていけるのではないかと考えておりますので、よろしくをお願いします。

4. 議事

(1) 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター令和4事業年度業務実績評価について

■加藤委員長

議題1「地方独立行政法人香取おみがわ医療センター令和4事業年度業務実績評価について」事務局より説明を願います。

□事務局（菅谷次長）

《業務実績評価の全体的な流れについて説明》

■加藤委員長

只今説明のあった業務実績評価の全体的な流れについて、委員の皆様からご意見はございますか。

～ なし ～

■加藤委員長

次に、令和4事業年度に係る業務実績報告等について、法人より説明を願います。

□菅谷経営企画班長

《令和4事業年度に係る業務実績報告等について説明》

■加藤委員長

ありがとうございます。只今説明のありました、この業務実績報告書等について、委員の皆様の評価を伺いたいのですが、私からですけれども、全体として、C評価がついているものはですね、コロナ関連が多いということで、やむを得ないところかと思えます。それから、特に、医師の確保という観点でS評価、寺野先生のご努力と思えますが、大変素晴らしいと思えます。

1つ気になりましたのは、8ページから9ページの接遇研修のところですが、昨今、大学等でも研修会の受講率は100パーセント達成を求められているのですが、この44.3パーセントとというのはかなり低いですが、もう1度説明をいただいでよろしいでしょうか。この研修会の受講率があまりにも低いのではないかとこのところでは。C評価よりも低くてもいいような受講率ではないかと。

□瀧口経営企画室長

接遇研修でしたので、講師を招いての対面講習でありました。そこで、全職員を動員するということができなかったもので、基本的にはサービス向上委員会の委員が中心となって参加したというところで、例えばビデオによる配信とか、そこまでやれば、そのビデオを見て、100パーセントというところに近づけることができたと思うんですけども、そこまでやることができずに、このような数字になりました。

■加藤委員長

ありがとうございます。まさにそれを提案しようとしていたところでした。我々のところも時間通りにみんな集まれないので、ビデオに撮っていただいて、それをみんなで視聴する仕組みを作ってもらえたら、なおよいかと思いました。ありがとうございます。

それから、お金のところの説明が色々と飛びましたので大変難しいところではありますが、コロナ禍で大変頑張られたこと、それから減価償却を前倒ししたりですね、全体的な経営状況は悪くないのかなと拝察したところがございます。細かく説明いただいたのですが、医業収益がトータルで計画よりも基本的には減っているというのは、入院が減っているからで、それは医者が足りなかったという説明でよろしいでしょうか。ご説明ください。

□瀧口経営企画室長

先ほどの説明でも、入院収益が減ったという説明を差し上げたと思います。目標値とし

ては、平均1日入院延べ患者数が84人という高い計画を立てたのですが、12ページにあるように、70.7人という結果になりました。医師なんですけれども、令和4年4月から6月及び令和5年1月から3月は、1人内科の医師を雇ったのですが、それ以外については4人でやったというところで、病床稼働率が今一つ伸びなかったこと、加えて11月に院内クラスターもありましたので、全体的に病床稼働率が落ち込んだと感じております。

■加藤委員長

ありがとうございます。院内クラスターが出てしまえばしょうがないところですが、100床で70.7人ということは、稼働率70.7パーセントっていうことで、ちょっとこの規模の病院としては、もう少しこの稼働率を上げなければいけないかなと。そこがですね、本当にこれがB評価でいいのかどうか、気になったところです。

私からは以上ですが、議題はこれ1つなので、各委員に意見を聞いていきたいと思えます。旭中央病院の野村先生、いかがでしょうか。

■野村委員

私からいくつか意見を述べたいと思います。まず、糖尿病のサポートチームを始められたということ、これは非常に良い取組みかと感心しています。これからも多職種のチームをたくさん作っていただき、患者さんのためになっていただければと思います。

特に気になったのは、救急の応需率でございます、5ページの、実績値が25.2パーセント、これはちょっと低すぎるのではないかという気がします。コロナで管外からの搬送の要請も多い中、具体的にどれくらい、何パーセントくらい要請があったのか、また救急を受けられなかった理由ですね、なぜ救急車を断らざるを得なかったのか、教えていただきたいです。件数がわからなければ、後ほど教えてください。

□桑原病院長

もともと、救急患者の時間外応需率、救急搬送応需率は長年ずっと課題となっていて、39パーセント前後という値が、大体ここ2年から3年の数字となっています。令和2年4月から令和4年12月まで救急対応のできる常勤の医師が3人しかいなかったという時期があり、日中でも医師が、午前外来に全員が入っている、午後でも処置・検査・手術をしているということがありまして、日中でも応需できないというケースが多々ありました。

夜間に関しましては、当直をパートの色々な科のドクターに依頼しているため、内科系の患者の受入れが悪かったり、あと、整形外科と外科の常勤医不足で、緊急手術等ができない状態のため、救急に関しても、外科系患者の夜間の受入れはかなり悪い状況でした。

ただ、我々も今年から医師が非常に増え、特に4月からは内科医師が6人となりました

ので、日中は断ることがかなり減りました。外科系は、処置ができない患者さんはお断りするとは思いますが、できるだけ対応しようというところで今取り組んでいます。

□瀧口経営企画室長

先ほど救急車の依頼件数で、野村先生からご質問がありましたので回答します。令和3年度ですと、時間外の救急車の依頼総数は419件ありました。それに対して令和4年度は627件ありました。プラス208件ということになります。実際どれくらいの患者さんを受け入れて診ているかという、令和3年度は151件、令和4年度は158件受入れを行っています。

こうしたことから、受入数としては増やすことはできず、昨年度と同等となってしまい結果的に応需率が低い状態になっています

■野村委員

ありがとうございます。よくわかりました。私どもの病院でも救急車の数が非常に増えてしまっていて、これまでの最高件数です。やはりコロナの影響と思いますが、キャパシティの問題もありますので、わずかでも受入件数が増えているのは素晴らしいと思います。私からは以上です。

■加藤委員長

野村先生、ありがとうございます。それでは、医師会の坂本先生お願いできますでしょうか。

■坂本副委員長

7ページをご覧ください。地域医療連携の推進というところではありますが、法人の自己評価はAとありますが、私はこの地元において、この項目はA評価でよいと考えています。理由としては、第1回香取郡市医療連携懇話会をWEBで開催し、これには寺野理事長先生や、桑原先生、各科の先生も出られていたので非常に良かったと考えています。

それから、広報誌のホスピタルストリートを去年創刊され、最近もまた発行されていますが、これも医師会や患者さんも見るので、非常に良いことで素晴らしいことだと思っています。

それから、香取海浜保健医療圏、成田市等の近隣病院との病病連携、これも当然やっておられて、先ほど救急の話で、救急隊員との連絡会議に医師会員として参加していますが、そこでいつも出ているのが医療連携の話になります。どうしてもスタッフが手薄であることで、全てを受け入れることは不可能ということで、やはり旭中央病院、あるいは成田赤十字病院、国際医療福祉大学成田病院、県立佐原病院等、近隣の病院と連携して救急を

担当してもらうということで、この辺は評価していますので、ぜひ継続していただきたい
と思います。

あとは、おおむね法人の自己評価でよろしいのかと私は思います。以上です。

■加藤委員長

坂本先生ありがとうございます。それでは、井上先生お願いできますか。

■井上委員

目標を概ね達成できているということで、その点は良かったかなと思います。今の救急車の応需率は確かに低いと言えれば低いんですが、この時期ですね、東京都の救命救急センターとかでも不応需がものすごく高くて、特に夏場は東邦大学の病院等でも、6割くらい断ったという話もありましたので、中々難しい時期だったんだと思います。

ただ、今後、新入院患者を獲得するためにも、地域を支えるためにも、救急は大切ですから、なるべく体制を整えていただいて、また、受けた患者に対して適切に入院させるということ、どうしても無理に帰し過ぎてしまって、それで後でトラブルになるということもありますから、入院率みたいなものも意識されても良いのかなと思いました。以上です。

■加藤委員長

後々の発展のためにもおっしゃるとおりですね。寺口先生いかがでしょうか。

■寺口委員

本当に独法になって1年目で、これだけの成績を残されているのは素晴らしいなと思って拝見しました。救急に関してはいま皆さんがおっしゃってくださったので、そのとおりだなと思っています。

6ページのところで、医療職の人材確保と育成の医師の確保については、S評価ということで、非常に大変な中でこれだけの方を採用されているということは、感心したところ
でございます。医師の働き方改革で給与やタスクシフト、勤務形態の柔軟な対応など、色々なさっていて、これはまさにS評価だなと思ったんですけども、現在看護職においても、処遇改善というのが問題になっていて、専門性を発揮している看護職の、仕事に見合った賃金ということで、たぶん補助金等、ここは対象にならないんでしょうか。少しでも看護職の処遇改善をしていただければなと期待しているところなんですけど、その
辺はいかがでしょうかということと、100床しかないところで、香取おみがわ医療センター
附属看護専門学校以外の看護専門学校あるいは大学の実習生を受け入れているという
のは、看護部は相当のご努力をされていると思います。これはB評価にされているんです
けど、相当ご苦勞があるのではないかなと思って、もう少し評価が上がっても良いのかなと

思って読みました。

それから先ほど接遇研修のことがでましたが、7ページにインフォームド・コンセントのことが書かれているんですが、これは何をもちって評価されたのかなと思ひました。例へば患者満足度調査で説明が分かりやすく、納得して治療に望めた、のような質問項目があつたのであれば、徹底に努めただけではだめで、患者、利用者がどのように評価されているのが重要かなと思ひるので、その辺をちょっと伺いたいと思ひます。

それから、待ち時間も努力されていることは文面からは伝わるのですが、どのぐらい今までは待たせていて、現在はどのぐらい短縮したかというような時間評価があれば良いかなと思ひて見させていだきました。

それから、もう1点、ハラスメントのところなんですけど、実はハラスメントの対応というののどのようにされているのかなというのに関心を持っているところです。実は、千葉県看護協会で、全千葉県の看護職のハラスメントに対する調査を行ったところ、70パーセント強がハラスメントを受けたというように回答しております。なので、院内のこの組織だけで、ハラスメントの相談窓口、あるいは対応がよいのかというのの疑問があるところなので、何か、対応されているようであれば教えていだきたいと思ひます。以上でございます。

□絵鳩事務部長

私からは看護師の処遇改善についてお答えをさせていただきます。こちらは、導入時は補助金を活用して、今現在は診療報酬で対応しておりまして、看護師の給与の月額から12,000円上乗せしております。

□瀧口経営企画室長

私からはインフォームド・コンセントの徹底に努めた、それが患者側で理解を得ているかという部分について回答したいと思ひます。

これについては、徹底に努めたという記載にしておりますけれども、一応、昨年度は、患者満足度調査というのを2回実施しております。その中で、診療に対する質問項目をいくつか設けております。ただ、診療に対して、その質問を設けますと、患者側では医師に対する評価というところもあるので、比較的高い評価をしているところがあります。何を言おうとしているかと言いますと、それが、インフォームド・コンセントの徹底に努めたから良かったのかどうかというところが分からないのですが、概ね良好な結果で終わっています。今年度なんですけど、その辺の中身を少しわかるような患者満足度調査をしようかということをお患者サービス向上委員会で検討していますので、今後改善していきたく思ひています。

□篠塚看護部長

私からはハラスメントの対応についてお答えさせていただきます。ハラスメントの相談は衛生委員会のメンバーが対応しています。職員のスタッフルームに心の窓というポストが置いてありまして、そこで何かあれば受け付けるという対応で、寺口委員からご指摘があったとおり、院内組織以外に対応しているかということですが、看護協会から心の相談のカードをいただきまして、それを全職員が取っていただけるように、ポストの設置場所とそのほかの部署にもおいて、対応しているところではありますが、それ以外にはまだありませんので、今後検討していきたいと思います。

看護大学の実習の受入れですけれども、コロナ渦で大学の実習ができないという相談がありましたので、頑張って受け入れています。看護師の育成に少しでも力を置きたいと思っております、当院附属の看護学校の実習以外にも大学の学生を受け入れている現状です。

□瀧口経営企画室長

待ち時間のところで、回答したいと思います。8ページにあります、診療待ち時間のところですが、実際に待ち時間が長い先生ですと、平均で90分くらいの長い先生もいらっしゃいます。その中で10分の短縮を試みたという結果の一部をここに書いています。当院には色々な診療科がございまして、外来患者数が1日400人を超えています。例えば、整形外科外来ですと、朝、受付をしまして、新規の患者ですと、予約の患者の後に診察の順番がくる場合がございますので、実際の時間ですと、それが午後3時であったり、午後4時であったりということもありますので、いったん自宅に帰っていただくような対応をしております。先ほどの満足度調査の一環にもなりますが、色々な状況の患者がおり、診療科でも違いますので、その辺をはっきりしていこうという取組みを今年度やっておりますので、待ち時間改善には引き続き努めていきたいと思っております。

■寺口委員

待ち時間に関しては、おっしゃったとおり、診療科によって全く違うので、全科統一ではなく、診療科ごとに対応された方がよいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

看護部に関しましては、本当に努力されているなと思いましたが、実習を学生のうちにしていない方が入職した後、離職に繋がっているというのもなくはないので、受入れに大変努力されているんだなと思えました。

ハラスメントですが、休憩室という目の付くところだと思うんですが、そういうところに置いてあると、入れづらいいいことで、看護協会に電話がくる場合があります。ですから、少し置き場所を検討されるのもよいかと思っております。ハラスメントによる離職がこのところ多いように思います。これは看護部だけではなく、全職種に通じると思

いますが、ここに関しては、職員が満足度を上げるためにもご努力が必要かなと思って伺いました。

あとは、非常に努力されているのが感じ取れました。ありがとうございました。

■加藤委員長

寺口先生ありがとうございます。他に委員の先生方から追加でご質問いかがでしょうか。みなさんに大変重要なところをご指摘いただいたと思います。

私から、寺口先生の質問に追加なんですけれども、インフォームド・コンセントの徹底に努めたというのは、やはり少し足りないかと思うんですね。きちんと書面で、例えばインフォームド・コンセントを取っているや取った旨、あるいは患者さんの反応がカルテに記載されているとか、やはりそういうことをモニターしないと、きちんとしたインフォームド・コンセントが行われているかというのは、なかなか評価しにくいのではないかと思います。是非、病院側でインフォームド・コンセントを徹底していることの評価をまずどうしたらよいかというのをご提案いただいて、今年度はそれに従って、例えばカルテ記載がこれくらいちゃんとしていたとか、書面で全てインフォームド・コンセントが取られているとか、そういう指標が一つ大事かと思いました。

これは意見でございますので、また改善いただければと思うんですが、他に皆さんございますでしょうか。

ないようですので、本日のご意見等を取りまとめて、後日、本委員会の意見として市長へ提出したいと思いますよろしくお願いします。

～ 異議なし ～

■加藤委員長

異議なしと認めます。本日予定した議事はすべて終了しました。以上で、議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

5. その他

■寺野理事長

先生方に大事なご意見いただきまして我々も身の引き締まる思いです。

独法化してから1年4か月ということで、医師の数も先ほどから言われましたように若干増えましたが、来年以降もある程度増やしていきたいと思っております。

千葉大学等を含め、来ていただいた先生方は非常にみなさん真面目な方たちで、すごくよく仕事をしていただいています。ただ、その結果はまだ4か月ですから、数値では出て

いません。先ほど、病床稼働率が70.7パーセントということで、確かに低いことは確かですが、今からこの先生たちがしっかり頑張ってくれば、100ベッドですから、必ずこの稼働率は80パーセントから90パーセントにはもっていかなければいけないと思っています。私が獨協医大にいたときも1200ベッドのうち、大体97パーセントか98パーセントの稼働率でした。おみがわ医療センターでもそれくらいまでいければいいと思うんですけれども、なかなかコロナの影響もありましたので、その辺は今後がんばっていかねければと思います。

ただ、医師を集めていくにあたり、欠点はやはり外科がないということが非常に大きな問題点になります。外科は、オペ室も1セット全部あるんですけれども、最小限3人の外科医に来ていただかないと仕事になりません。ただ、我々の病院の場合、3人の外科医に来ていただくような、そういう時代ではないというところがつらいところになりますが、地道に努力をしていきたいと思っています。

それから附属看護専門学校の問題もあります。これは、また香取市ともご相談させていただくことになると思うんですけれども、今は、准看護師が正看護師になるための2年間のコースで24人の定員でやっていますが、今年は16人しか入学者がいないということで、だんだん減ってきています。そのため、看護学校を我々のような小さな病院が持っているというのは、無理なのではないか、という意見も出てきますので、根本的に考える必要があります。ただ、これは香取市でも継続していくことを認めていただいたことでもありますし、我々が教える中から看護師が出てきてくれて、将来恐らく看護師が不足するような状況が来ると思うんですけれども、そういう時に助けてくれると思うので、何とかこれを持っていきたいとは思っております。ただ、なかなか難しい問題点があるということも含めてですね、まだまだやることはたくさんあります。まだ発足後1年4か月ということで、今から頑張る、ということをお約束するということで、今日は、大変いい意見をいただくことができ、参考になりました。ありがとうございました。

□事務局（菅谷次長）

《次回の開催予定について説明》

6. 閉会